

2025 年 6 月 20 日

通貨ニュース

台湾：6 月金融政策会合～現状維持を決定、利下げの検討には至らず

台湾中央銀行(CBC)は 19 日、金融政策会合を開催し、政策金利(ディスカウントレート)を据え置き、2.00%とした(図表 1)。政策金利の据え置きは 5 会合連続での決定。なお、ブルームバーグの事前予想でも現状維持が優勢だった。

国際為替部
シニアマーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

声明文では世界経済動向について、成長ペースが減速していると総括している。米国の関税政策や中国経済の動向及び中東情勢をはじめとする地政学リスクの高まりなど複数の不確定要素が混在しており、世界経済の見通しが立ちにくい点にも言及した。国内経済については、25 年 1～3 月期実質 GDP 成長率は前年同期比+5.48%と 24 年 10～12 月期の同+3.82%から加速した(図表 2)。内訳を見ると、輸出部門が大きくけん引した格好だが、米国の相互関税発動を見越した駆け込み需要が増加した可能性は高い。一方、足許の新規輸出受注を確認すると、米国も含めて決して需要自体が減速しているわけではなく、GDP 統計からも AI など先端産業に関連する民間投資が拡大していることが確認できる(図表 3)。この傾向が今後も続くかが今年の経済成長のポイントとなるだろう。CBC は今後 GDP 成長率が米国の関税政策の影響で減速すると見込んでいるが、25 年の成長率見通しについては従来の同+3.05%に据え置いた。

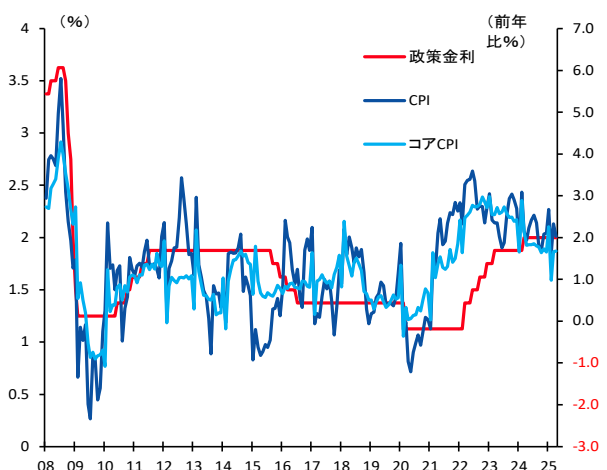
物価動向について、直近の 5 月消費者物価指数(CPI)は前年比+1.55%、エネルギー・野菜・果物を除いたコア CPI は同+1.61%と安定的な推移が続く(図表 4)。25 年 1～5 月の累計ではそれぞれ同+2.04%と+1.65%となっており、インフレは制御可能な水準にあると言える。下半期について、CBC はサービス物価の鈍化と資源価格の軟化の可能性に言及しつつ、インフレは今後緩やかに鈍化していくと述べた。25 年のインフレ見通しは、総合ベースは従前の同+1.89%から+1.81%へ、コアベースについては同+1.79%から+1.69%とそれぞれ下方修正されたが、従前の見通しから大きな変化がないと捉えて良いだろう。

以上を踏まえて、CBC は引き続き外部環境の変化に対する経済・物価への影響を見極めるべく現状維持を決定した。楊 CBC 総裁は現在の金融政策のスタンスを過度に引き締めの的でもなく、緩和的でもないとして総括した上で、今後景気の悪化とインフレの急減速が確認された場合は利下げを検討すると述べた。この点から CBC は景気・物価の下振れリスクを意識していると推察されるが、足許の経済・物価状況からはその必要性は未だ低いと考えられる。実際に今回の会合で予防的な利下げを主張する政策会合メンバーは居なかった。

また、CBC は足許の TWD 動向について、為替レートは市場の需給が決めるという原則の下で、過度な変動などが生じた場合には市場の秩序維持に努める方針を示した。5 月の TWD 急騰は、対米貿易交渉において米国が TWD 高方向に調整することを求めたとの報道がきっかけとなり、頼清徳総統自らがこれを否定する事態に至った。以降、TWD の上昇ペースはやや弱まっているが、ドル

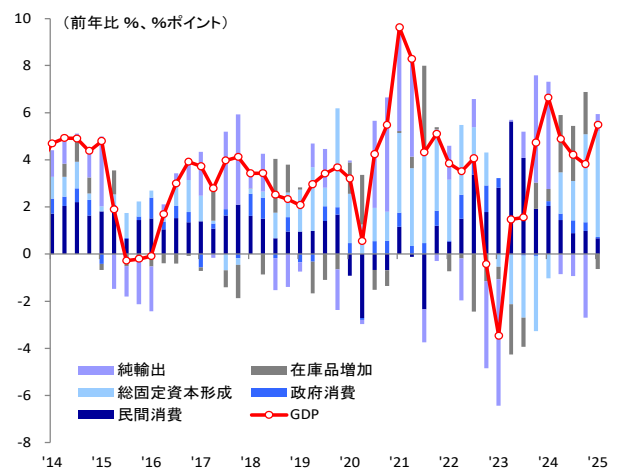
インデックスの低下や台湾国内機関投資家を中心にドル安を警戒した TWD の買い戻しが継続している(図表 5)。かかる中、TWD は次の相場材料を探る地合いにあるが、米国の相互関税の延期期日が近づく中で、32%と高水準の関税率を言い渡された台湾はその交渉の重要度も必然的に高まるはずだ。現在、主要輸出品である半導体は高関税の対象外となっているものの、関税完全撤廃にはまだ距離があるのも事実である。日本・韓国など高水準の対米貿易黒字を計上する近隣国の交渉も着地点が見えない中で、早期の合意は期待しにくく、相互関税発動が再延期されることも視野に入る。7 月以降も外部要因に左右される相場が継続しそうであり、TWD は方向感を欠く時間帯が出て来ても不思議ではない。

図表 1: 政策金利とインフレ率



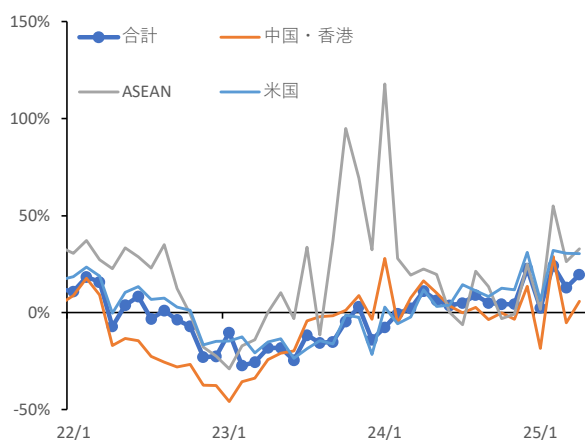
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2: 実質 GDP 成長率の動向(前年比%、%ポイント)



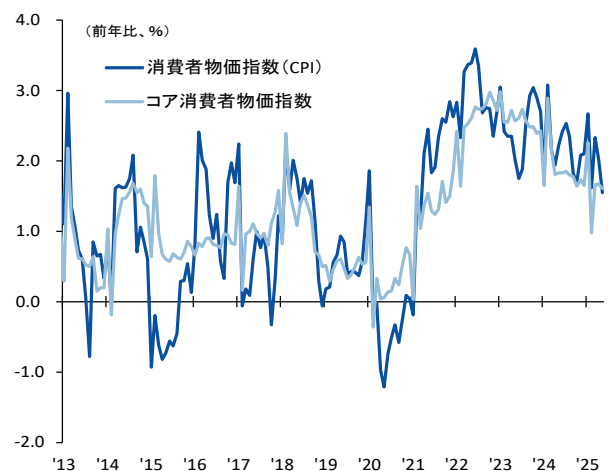
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 3: 新規輸出受注の動向



出所: Macrobond、みずほ銀行

図表 4: 消費者物価指数の推移



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 5: TWD とドルインデックスの動向



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。